

千刈狸の呟き

～山奥でひっそりと二人で暮らす ある老夫婦のものがたり～

黄昏狸

ある老夫婦のものがたりです。この夫婦は、最近になって訪問診療を開始したお年寄りで、二人とも90歳を越えています。

実は、このお宅を訪問するきっかけは、昨年10月に当地区で開催された「つなぐ会」の事例検討会で、おばあちゃんの担当のケアマネさんが事例として発表したことから始まります。このおばあちゃんはひどい腹痛が続いており、しばらく病院で診てもらっていたのですが、腹痛の原因がはっきりせず、便秘が腹痛の理由であろうということで5種類の便秘薬を処方されていました。しかし彼女は夜中に何度もお腹が痛くなり、その度に病院の夜間救急外来を何度も受診し、結局は浣腸と痛み止めの注射を打ってもらって帰宅するという生活を繰り返していたそうです。病院依存がとても強く、消化器科だけでなく、呼吸器科、循環器科、眼科、整形外科、精神科等多くの科を受診しており、最近では認知症の症状も見られ精神科で抗認知症薬の処方も始まりました。すべての科の処方薬を合わせると20数種類もの薬が出されていたのです。おばあちゃんの一番の問題は毎回起こる夜間の腹痛で、ある消化器科の先生にお腹が痛いと言いつづけたところ原因不明と言われ、もうその先生には何も言えなくなってしまったそうです。結局、消化器科でなく腹部の専門外の先生から5種類もの処方された下剤をただ服用し我慢することになりました。95歳になるおじいちゃんは、毎晩おばあちゃんの腹痛で起こされてお腹をさすってあげるとい生活がずっと続き、心底疲れ果ててしまっているということでした。

事例検討会では、各グループでいろいろな意見が出されました。ほとんどのグループの意見は一致しており、まずは受診科を少なくし、処方数も少なくするべきである、施設利用を増やしてみようか、訪問診療や訪問看護の介入は可能かどうかなどの意見が出ました。私もどこか一箇所でも処方をもとめ、可能であったら訪問診療と訪問看護が介入できれば、それが一番良いのではないかと考えました。「つなぐ会」が終了してすぐに、その発表の担当ケアマネさんが私のところに駆け寄って来て、実はその老夫婦は私の住む地区の住民であり、是非とも私にかかりつけの先生になっていただいて訪問診療をしてくれないかというお願いでした。まさか、この事例が自分に振られるとは予想もせず、びっくりしましたが、断る理由も浮かばずお引き受けすることになりました。

11月中旬に老夫婦が住む山奥の古民家風の立派

なお家に多職種が集まり、担当者会議なるものが開催され、この老夫婦を今後どうやって支えていくかを話し合いました。多職種とはケアマネさんを中心に、ヘルパー、訪問看護師、保健所職員、社会福祉協議会、訪問薬局、訪問診療医の私とそこで働く看護師のチームです。その日は、ついでに診察もさせていただきました。お腹には右の季肋部に沿って胆石症手術後の斜めの創痕があり、その下に圧痛がありました。いつも痛いのはその右上腹部で、聴診してみるとその腸雑音が亢進しておりました。おそらく、創部の下の腸管が癒着しており、そのための軽い通過障害があると思われました。夕方の決まった時間に5種類の便秘薬を服用すれば、ちょうど深夜頃に下剤が効いてきて腹痛が起こったのかもしれませんが。下剤を含めて薬の種類を半分くらいに減らし、一日の服用回数も減らすことにしました。

驚いたのは、おばあちゃんから「今まで、こんなにしっかりお腹を診てもらったことはなかったよ～。それにしても先生の手は温かいな～」と言われたことです。これは、最近私の診療所もカルテが電子化になって、パソコン画面に向かうことが多くなり、じっくりと患者さんのお腹を触ってはいない自分に対する戒めの言葉であると感じました。そして「手当て」とは手を当てて患者さんを安心させてあげることであることも再認識させられたのです。

ある日の午後、診療所はいつもの休診で他に何も予定がなかったので、ひょっこり老夫婦のお宅を一人で訪ねてみました。おじいちゃんが歓迎してくれて美味しいお茶を出してくれました。やはり、通常の訪問診療とは違ってゆっくりと彼らの語りを聴くことができます。その日は、彼らの今までの生き方、暮らし方、考え方、子供兄弟親戚や友達のことなどたくさん聴くことができました。その日、おばあちゃんから笑顔で「昨日の夜、先生が家に来てくれる夢を見たよ。やっぱり来てくれたんだ。ありがてえな～。お腹はほとんど痛くなくなって、夜中におじいちゃんを起こすことも少なくなったよ。ありがとな～。今度は腰が痛くなったんで、それも診てけれや～」と言われました。私は「了解です。今度は腰の治療もしましょうね。また来ますね」と言って帰路につきました。

これからもこの老夫婦とのものがたりは続きます。私はこの老夫婦の「人生というものがたり」の一部に参加できたことを本当に嬉しく思っています。